

平成17年11月12日（土）、深川市生きがい文化センターにおいて、深川市社会福祉協議会、深川市、深川保健所との共催で、平成17年度精神保健福祉フォーラム兼深川市福祉大会を開催しました。当日は、社会福祉活動功労者に対する深川市社会福祉協議会会長表彰の後、NPO法人遠軽地域さわやか共同作業所の劇団「マイゾメイノス」による劇「雨のち晴れ 時々台風～障がい者の姉を持って」のビデオ上映が行われ、上映後、同作業所長屋所長の講演と、劇の主人公と作者である井上姉妹のスピーチがありました。

そして最後に、シンポジウム「暮らしを支える、共に楽しむ……障がいのある人もない人も、共に生活する地域づくりを考える」が行われました。ホールでは、病院デイケアや作業所の作品展示や販売が行われ、会場には約200名の市民が集って、ビデオ上映に見入りパネリストの発言に耳を傾け、障がいについて、地域で暮らすことについてなど熱心な議論が交わされました。以下に、シンポジウムのパネリストからのメッセージ、参加したボランティア、関係者などからの感想を掲載します。

（構成・保健福祉推進部 小田島 一典）

## 1. パネリストからのメッセージ

### ①「前向きに生きる」

残念ながら当事者として壇上に上がる勇気がなく、スライドを通して代弁していただきました。

聴衆の中から劇団マイゾメイノスのビデオ上映と長屋敏男氏の講演に感動しました。障がいを持つ姉を支えながら、一般者に解り易い演出をした妹さんの栄えある勇気と自信に心の中で拍手をしました。この病気は発症していても自分に病識がなく、家族の混乱を招く障がいであり、自分自身もどことが悪いという意識が去来し、周囲の事が余り気にならなくなり進行していたのです。しかし、現在、周囲の環境も変わり、障害の垣根を越えて急速に当事者と社会の間が近づきつつある雰囲気を感じています。

これからは、病状への理解度、就職への障害、老後、社会復帰への道を模索していきながら地域と共に生きる、そういう前向きな気持ちを保っていきたいと思います。社会も当事者も明るい話題を共有し、地域社会に根ざす事を目的に、これからもカミングアウト（公表）するタイミングを図っている所存です。今回は皆さんありがとうございました。

このようなフォーラムがまた、近々開かれることを願っています。ここでこの病気は“不治の病”ではないことを付け加えておきます。

回復者クラブ「フレンド」 代表 杉本 隆文

②今回のフォーラムでは家族会のみみんなの意見を代表して話をしました。今までは家族会や関係者の方としか話をする機会がありませんでしたが、この度はいろいろな障がいの人が集まって話をする機会ができたことはとてもよかったと思います。そのような場があればまたいろいろな話をしたいと思っています。

<娘さんの感想>

当日は参加できませんでしたが、母が原稿を手直したり発表の練習をしている姿をみて「当日、間違えないか」と心配でした。無事、終了してよかったです。

深川地域家族会七和会 伊藤 富美子



③深川市障がい者ネットワーク協会という今年初めて設立された団体からの発言ということで参加させていただきました。深川ではまだ、地域生活支援センターやグループホーム、共同住居等の整備が遅れている現状です。このフォーラムを通して、精神障がい者の地域における現状や、今後の取り組みへの熱い思いの一端を伝える機会を与えてもらい、有益なひとときでした。これからはネットワーク協会33団体88人こころを合わせて「障がいのある人もない人もお互いの存在を認め合い、共に生きていくことのできる共生社会を実現するために協力していきたい」と強く誓いました。

深川市障がい者ネットワーク協会 会長 白井 進

④障がい者、特に「精神障がいのある者」は未だ社会から隔離され隠さなければならぬ存在との扱い、偏見や差別の見方がなされています。どのように障がい者を受け入れていくかという事が地域社会の役割であるとの考えの下に、多くの人達に障がい者の正しい認識と理解を訴えての取り組みでした。病気の軽重によって異なりますが、社会生活に充分適応できる人達が居り、地域で暮らしたくても受け入れ体制がない事により、施設から出られない人達が大きい事など、多くの人達に知っていただけたことは大きな前進であったと考えます。

精神保健福祉ボランティア 北本 清美

⑤パネリストとして話すことにより、今のデイケアを客観的にかつ包括的に見直すことができました。更に同じ地域内の他の施設・機関の声も聞けたことにより、この地域におけるデイケアとしてどのような役割があるのかという点もあらためて考えさせられ、「デイケア内からデイケア外へ」という視野の広がりが私にとって大きな収穫でした。このフォーラムで得たものを、当院デイケアを初めこの地域全体への支援に還元できるよう、これからも頑張りたいです。

北海道中央病院精神科デイケア「ユムール」 臨床心理士 岡田 里枝

## 2. 参加者、関係者からのメッセージ

①私がボランティアに参加してから数年経ちましたが、当事者から仕事をしたい、仕事に就けないと、あせりの声を聞くことがあります。多くの人々の理解と協力で少しでも早く現実的なものになることを願っております。そして精神疾患で悩んでいる人、一人一人が個性に合った仕事で、希望と喜びのある暮らしが出来るような環境が必要だということ強く思った一日でした。

精神保健ボランティア 渡辺 光枝

②毎日私達の生活の中で笑顔で話しあい、又、ふれあう事がもっとも大切に、その中から家族、地域との暖かい愛が育まれるのだと思います。そして、多くの人々の理解のもとで、安らぎ働くことが出来る職場が今一番必要とされているのではないのでしょうか。難問は多くある事と思いますが、夢ではなく「小さな力」「小さな一歩」を今踏み出してゆかなければと思っています。

精神保健ボランティア 三浦 満子

③遠軽共同作業所のビデオ「雨のち晴れ、時々台風」を見て、障がいをもつ方のご家族の苦勞と地域の方々の暖かなまなざしを感じました。障がいは特別なものではなく個性を受けとめて、偏見を取り払い病院から社会へ出て暮らすことが大切と思いました。自立支援法が絵に描いた餅にならぬ様、本当の意味で社会の弱者の支援になるよう行政の一層のご努力を期待するものです。

精神保健福祉ボランティア 進藤 美沙子

⑥フォーラムの企画から、回復者クラブ、家族会、病院や行政などの関係者が集まり、「深川の（精神障がい者をと）りまく）現状を理解してもらえよう内容に」という方向性を持ち準備してきました。このフォーラムを通じて、関わったみなさんとこれからの地域づくりを共に考えていくことを再確認できたように思います。また、遠軽さわやかみなさんに、フォーラムに御協力いただいたのはとても嬉しいことでした。私たちの活動は深川地域の関係者だけでなく、全道各地のみなさんに支えられているということを改めて感じました。

深川保健所 主任保健師 田村 周子

④障がいを克服し社会復帰を目指している人、又、入院及び通院で治療を継続している人に、地域社会はどれだけの理解とサポートをしてくださっているのか再度考えさせられました。障がいのある人の個々の考えを尊重し、地域社会側（健常者）ができる援助行動を示す必要があると実感しました。また、各医療機関及び当院より患者様が出品された各種作品（書道、手工芸など）をロビーに展示し、好評を得て多数の方々よりお褒めの言葉をいただき、作業療法としての理解も得たと思われま。

東ヶ丘病院作業療法科 吉田 明夫

⑤参加者からも「大変勉強になった。」「講師、パネリストの話が良かった。」「これから深川でも精神障がいへの理解が進み、作業所などの事業が発展できれば良いと思う。」「など前向きな感想が多く聞かれました。障がいを持つ方を取りまく環境は、まだまだ発展途上と考えます。だからこそ、地域の方の温かな見守り・手助けが必要だと思います。障がいを持つ方が「この街に住んで良かった」「充実した生活を送れる」と思ってもらえるようなまちづくりを地域のみなさんと作っていきたいと思います。

深川市社会福祉協議会 統括主事 橋本 真

